

鵜沼橋郵便局のホルンのマーク

八柳 修之

コロナは終息の気配が一向見えないどころか、17日には神奈川アラートが発出された。そんな中、身体もなまってしまうので感染予防対策をとった上、歩く範囲を家から1km以内に拡大することにした。1kmに拡大すると遊行寺も圏内に入る。週に何回かは駅前の小田急湘南ゲート（旧小田急百貨店）の地下食品売り場や6階の図書館へ行く。藤沢駅南口を出た所に湘南薬品がある。薬局の一角に昭和30年代頃までの藤沢の風景を写した写真が展示されており興味深い。その写真の中に昭和31年に撮影した取り壊し以前の秩父宮別邸の写真があった。別邸跡は現在、天理教会になっており、以前、FWAのウォークメイトでも訪問したことがあった。しからば帰り道は橋通りを歩き天理教会経由で帰宅することにした。

現在、市民の家となっている旧後藤医院前を通りすぎ、道が二股に分かれた所に鵜沼橋郵便局がある。どこにでもある町の郵便局だが、局舎の建物がちょっと変わっている。上を向いて歩かなければ気が付かない。局舎の妻の部分のマークが〒のマークでなくホルンである。日本郵便のマークは旧来から逓信省のテの字をとって〒のマークが使われているのはご存知のとおりである。局員の話によると、ドイツ、スペインを始めヨーロッパでは切手にホルンのマークが使われているそうだ。両国ともに旅行したことはあるが、郵便を出すときはホテルのフロントをお願いしていたから気が付くことはなかった。ネットで調べてみると、これらの国では、昔、郵便馬車が到着したときホルンなど楽器で知らせたことに由来するという。下の2枚の写真は無料画像から。



特定郵便局では各局とも工夫を凝らしスタンプを用意しているので、記念にとハガキを買いスタンプを押してもらったのが下の写真である。スタンプは通常、丸形なのだが、このスタンプは屋根の形をした変形である。ホルンを頭に江ノ電、池は蓮池だろうか、鯉のようだが藤沢メダカが泳いでいるデザインである。



マニアの間では郵便局のスタンプを求めて歩いている人がいる。以前、FWAの会員の中にウォークの都度、郵便局を見つけると列を離れスタッフ泣かせの人がいた。個展まで開き新聞にも掲載されたことがあった。その人の話であったが、鵜沼に住んだ廣田弘毅(注)の揮毫が橋郵便局にあると聞いたことを思い出し局員に聞いたが、以前は局舎内に飾ってあったが公開していないという。その理由を聞いたが口を噤んだ。何か不都合があるようだ。

(注) 廣田弘毅 (1878~1948) 第32代内閣総理大臣、A級戦争犯罪人として文官としてただ一人死刑になった。追記：この原稿を書き上げた後、本を返却するため図書館へ行ったら、藤沢市民ギャラリーで藤沢市郷土歴史課による「郵便、風景印に見る藤沢の文化財」展が開かれていた。市内の18の郵便局で風景印が使われており、図案には多くの文化財が描かれています。会期は9月10日までです。おついでの折、ご覧下さい。

以上